

今回で6回目になる「ごみシンポジウム」が、昨年11月27日にひの煉瓦ホール（市民会館）で行われました。このシンポジウムは、東京薬科大学の里山復元サークルASIATOに在籍している学生が企画・運営を担当しました。

みんなでつくる環境講座

ごみシンポジウム6

クリーンセンターの見学や、その後の市職員による「出前授業」に参加した夢が丘小学校と日野七小の4年生が、環境学習の成果を発表し、ASIATOのメンバーとともに、ごみ減量と環境保全の大切さをアピールしてくれました。大学生と小学生が発表した内容の一部を紹介します。

ごみゼロ大作戦!

夢が丘小4年生の皆さん



買い物には「マイバッグ」を持参することやプラスチックの再資源化について学び、壁新聞にまとめて発表したことなどを報告してくれました。そして、「ごみゼロ大作戦」の頭文字をとったアピールは、とても力強く頼もしいものでした。



- ごみをへらせば
- みんなしあわせ
- ぜんぶすてずに
- く月の学習をいかそう
- 大じにも物を使えばごみもへる
- さいりようしよう!
- ふうすればつかえるものもある!
- せんべつして工夫しよう

このような壁新聞を作りました



合言葉はもったいない!

日野7小4年生の皆さん



世界のごみについて調べました。シンガポールでは、ごみのポイ捨てやつばを吐くことなどが厳しく禁止されていること、ドイツでは「リユース」の考え方が進んでいて、飲み物の値段には容器の貸し出し料金が含まれており、レシートと空き缶を買ったお店に持って行けば貸し出し料金が返ってくることなどを紹介してくれました。



そして、ケニアのワンガリ・マータイさんが日本の「もったいない」の考え方を世界に広めてくれたことに触れて、私たちも「もったいない」を合言葉にごみ減量に取り組もうと会場に呼びかけました。



環境復元のお話

東京薬科大学里山復元サークルASIATOの皆さん

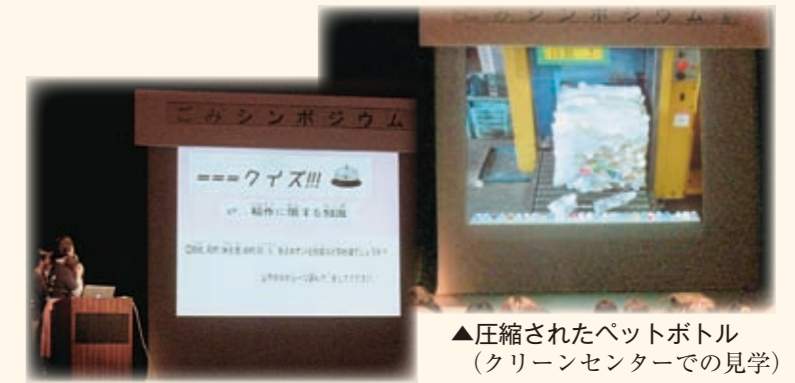
里山（メダカ、ホタル、ドジョウ、トンボなどの多くの生物が生息し、水害や土砂崩れなどの災害を防止する、人の生活に結びついた樹林地）を復元することを目標に活動しています。その日頃の活動状況を紹介しながら、コメ作りの一年を人の成長に例えて解説しました。



そして事前に小学生に出題した稲作に関するクイズ

【一例】「稲作の発芽にちょうどいいと言われている水温」は、冷蔵庫の水・学校の屋外プール・水道水・温水プールのうちどれか? (答=屋外プール: 22℃~25℃)

の答え合わせ、小学生のクリーンセンター見学のおさらいをしてくれました。



▲圧縮されたペットボトル (クリーンセンターでの見学)

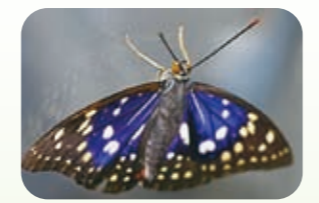
まとめ 日常生活を見直して、できることを実行に移す



▲ニツ塚処分場 (後方に谷戸沢処分場があります)

日野市をはじめ、25市1町のごみが日の出町に集められている。

家庭から出されたごみは、クリーンセンターで中間処理（破碎や焼却等）した後、日の出町にある最終処分場に運ばれて、セメントの材料に加工されたり、埋め立てられています。その最終処分場は、元々は自然豊かな森でした。しかし、ごみの最終処分場を造らなくてはならないというやむを得ない事情で、一旦自然を切り開いて、埋立地や工場を造ったのです。ですから、自然環境をこれ以上壊さないようにするために、ごみはどんどん減らさなくてはなりません。



▲「国蝶」オオムラサキ

そして、ごみの処理のために一旦壊してしまった自然は、人間の努力で出来る限り元に戻さなくてはなりません。同じ日の出町に所在し、もう埋立事業が終わっている「谷戸沢処分場」では、このような自然回復の努力によって、絶滅の心配がある「オオムラサキ」という美しい蝶（国蝶）が幸いにも帰ってきたそうです。このごみシンポジウムを通して、ごみの行方を再確認し、日常生活を少しでも見直して、できることを実行に移してください。



▲シンポジウム終了後、ASIATOのメンバーが育てて収穫したもち米で楽しい餅つき。